

## 新発見！ 相生湾を見下ろす位置に築かれた前方後円墳

問 歴史民俗資料館 ☎ 2961

平成30年10月、国土地理院がホームページ上に公開している「傾斜量図」（地表面の傾斜の大きさを表示した図）を観察し、前方後円墳の確認作業を進めていた研究者（倉敷市）から、IHI相生事業所敷地内の山の上に前方後円墳が存在する可能性があるとの連絡が歴史民俗資料館にありました。

直ちに現地踏査を行うとともに、平成31年1月に生い茂った草木を一部伐採したところ、墳長が50m近くある保存状態が良好な前方後円墳であることが判明し、「甲崎古墳」と命名しました。

古墳の概要については、相生市歴史民俗資料館が発行している『れきみん 資料館だより』No.III-21（2019.6.21）で紹介し、一部新聞でも報道されました。また、今年の1月には歴史民俗資料館における行事「史跡めぐり」で応募された市民20人が見学しました。

令和2年4月には全面伐採と測量調査を行い、現在、測量図をもとに王墓とされる大型前方後円墳や播磨地域の前方後円墳と比較研究を進めているところです。

調査・研究の成果は来年度末に公表する予定にしていますが、現時点で判明している内容を紹介します。

### ■古墳の概要

◆所在地 相生市相生字甲崎（IHI相生事業所構内相生総合事務所背後の尾根上）

◆立地 南西から北東に延びる尾根の標高約76mの地点に、後円部を北東に向けて築かれています。播磨灘－相生湾－那波浦（港）・佐方に至る海上交通の要衝（相生湾がくびれて最も狭くなる海域）を見下ろす地点に立地します。

◆規模 墳長約47m、後円部径約29m、後円部高約4.2m、くびれ部幅約12m、前方部長約18m、前方部先端部幅約19m、前方部高約2.6m

◆外表 後円部・前方部ともに2段。周濠（古墳の周囲に掘られた堀）はない。葺石（古墳の斜面を覆う石など）は部分的に存在する可能性が高いが（一部石の破片散乱）、埴輪は未確認。



甲崎古墳の位置

### ■特徴と意義

◆保存状態が極めて良好な前方後円墳（後世の改変がほとんど認められない）

◆相生市域4例目の前方後円墳（他の3例は塚森古墳約60m [那波野]・佐方1号墳約33m [佐方]・大避山1号墳約57m [若狭野町下土井]）

◆海浜型の前方後円墳（周囲に耕地がほとんどないため、海を基盤につくられたと考えられる）

被葬者は、播磨灘から相生湾に至る海上交通・流通を掌握し、倭王権から管理を認められた人物の可能性あり。

◆前方部が短い前方後円墳

前方後円墳は、同時代の倭国王の許容、「設計図」の下賜（身分の高い人が身分の低い人にもものを与える）を受けて築造される政治的建造物と考えられている。

◆築造時期は古墳時代前期（4世紀ごろ）



測量調査の様子

※甲崎古墳はIHI相生事業所構内に所在するため、立ち入ることはできません。